

二分脊椎について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
二分脊椎	<p>◇症状</p> <p>二分脊椎症では、神経形成時の障害により下肢運動機能、膀胱直腸機能が程度の差はあれ障害される。しかしその他の症状に関しては、同じ二分脊椎症でも開放性と潜在性では重症度に大きな違いが生じてくる。開放性二分脊椎症の代表である脊髄髄膜瘤では水頭症・キアリ奇形を伴う。これは、脊髄髄膜瘤では胎児期に髄膜瘤周辺より髄液が漏出することが原因と考えられている。</p> <p>◇治療</p> <p>二分脊椎症の治療の基本は外科治療が担う。脊髄髄膜瘤など開放性の場合には生後早期(通常72時間以内)に感染予防と神経機能温存を目的に修復術を施行する。水頭症を合併する場合には生下時に髄液リザーバーを設置し、間欠的に髄液排除を行ない生後1-2週間頃に脳室腹腔短絡術(VPシャント術)を施行する。キアリ奇形による脳幹機能障害が出現する場合には大後頭孔-上位頸椎減圧術を行なうが、通常は生後1-3ヶ月の時点で行なわれる。</p> <p>(MyMed医療電子教科書HPより)</p>	<p>日本二分脊椎症協会 http://www006.upp.so-net.ne.jp/sbaj/</p>